とうきょう すくわくプログラム活動報告書

ももぐみ（1歳児）

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

自然遊び（虫）

＜テーマの設定理由＞

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など） 様々な自然物に興味を持ち世界が広がる

２．活動スケジュール

６月：散歩時に虫や草花の自然探索を行う。 7月・8月：室内に虫のイラストを貼り、めくったりしながら様々な虫に親しむ。また、異年齢児が育てている虫を観察し、興味感心をもつ。 ９月：虫取りごっこ、秋ならではの自然探索をする。

3.　活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具） ・虫を入れる牛乳パックの箱を用意して、虫を観察しやすいようにする。 ・虫取り網や虫メガネを使用して、虫や自然に興味を持てるようにする。 ・虫のイラストが出てくる手作りの壁面を用意し、より興味関心が広がるような環境設定にする。 ・セミの抜け殻を取ってきて、間近で観察したり、手の平にのせて触れられるようにした。

４.探究活動の実践

＜活動内容＞

・ダンゴ虫に興味を持ち、ダンゴ虫探しを楽しむ。

・虫の紙芝居を見たり枝や石で土を掘りダンゴ虫を探し捕まえようとする。

・虫を入れる白い牛乳パックの箱を用意して、虫を観察しやすいようにする。

・網や虫メガネを用いることで様々な虫への興味関心が広がるようにする。

・木の壁面をめくると様々な虫が出てくるイラストを貼り付け、虫探しを楽し目るようにする。

・虫の動きを表現したり、友だちの真似をして模倣を楽しむ。

・室内で虫取りごっこを楽しむ。

5.活動中の子どもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり

＜活動の内容、活動中に見られた子どもの姿、保育者との関わりなど＞

・虫メガネを用いてダンゴムシを観察すると「おっき～い！」と興味津々で眺めている。

・牛乳パックの箱に乗せ、観察しやすくして覗き込んだり、つかみ取っている。

・網で蝶を捕まえると興味をもち触ろうとしていたが、飛んでいる蝶の様子に驚いている。

・夏の虫が隠れている壁面を作ると、めくりながら「これなあに？」と保育士にたずねている。「セミだよ」「クワガタだよ」等と伝えると「せーみ」「くーわた」等と発している。
・ダンゴ虫やカブト虫のイラストを見ると、虫のポーズをとって表現している。
・虫が隠れているイラストの壁面を見ると、おままごとの玩具を持って行き、ご飯やジュースを飲ませている。
・幼児クラスで飼育しているクワガタを見せると、様々な方向や角度から観察して楽しんでいる。
・年上の友だちが「クワガタ怒ってる」と言うと、クワガタの真似をして怒った表情を見せている。
・セミの抜け殻を見つけて怖がる子どももいたが、じっと見つめたり、抜け殻と蝉の図鑑を見比べている。
・散歩の道中でセミの鳴き声が聞こえてくると「みんみ～ん」と鳴き声を真似ている。
・室内一面に虫のイラストを貼って【虫取りごっこ】を行った。虫網の玩具を手に取ると、壁や天井に向かって振りかざしたり、葉っぱのイラストをめくったりして思い思いに昆虫探しを楽しんでいる。
虫の名前を知っている子は、嬉しそうに指さして知らせる姿が見られている。

５.振り返り＜振り返りによって得た先生の気づき＞
・探索の前後に導入として虫の紙芝居を読み聞かせする事で、虫の探索に興味をもっていた。また、牛乳パックの箱や虫メガネ、網等を使う事で、虫に関心がなかった子どもも道具や虫たちに興味をもつことができていた。室内を虫の折り紙や手作りの壁面にすると、夏の虫たちに興味をもち、発語にも繋がっていった。
・様々な虫へ興味が広がっていくと、虫のポーズをとったり、鳴き声を真似して子どもたち同士で自由に表現をして楽しんでいた。昆虫観察やリズム体操での表現遊びの経験を重ねていくと、友だちへの関心が一層高まっていた。保育室での虫取りごっこの体験を通して、虫網や探索活動への関心が広がり、そこから自分立で虫の真似を体で表現したり、友だちと関わるきっかけとなっていた。また、環境を整える事で見立て遊びやかんたんなごっこ遊びにも繋がった。